

第 97 回助産師国家試験分析報告

第 97 回助産師国家試験について、公益社団法人全国助産師教育協議会（以下、本協議会）の立場から「助産師免許付与のために必要な能力」が測定できる出題か否かを分析した。

分析に当たっては、現在社会的に広く認知されている「助産師の声明（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師のコアコンピテンシー（社団法人日本助産師会：現、公益社団法人日本助産師会）」、「助産師教育のミニマム・リクワイアメンツ（公益社団法人全国助産師教育協議会）」、「助産師の卒業時の到達目標（厚生労働省）」を「助産師国家試験出題基準」に照合させて用いた。

具体的には以下の 3 点を検討した。

- ①設問と解答肢の検討
- ②知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス
- ③助産師免許付与に必要な能力（レベル）を測定する問題か否か

本分析結果が、第 97 回助産師国家試験において当該年度の助産師免許付与のための採点や合格基準の検討資料として活かされることを切に希望するものである。

分析結果を以下に示す。

I. 設問と解答肢の検討

設問と解答肢の検討については、午前問題 7 を不適切ではないが、課題のある問題と判断した。これは、胎児発育不全を伴う妊婦への保健指導を問う設問である。非対称性 FGR の原因として、妊娠高血圧症候群、慢性腎疾患などの母体合併症、胎盤や臍帯の異常による子宮胎盤循環の血行障害などがある。しかし、本症例では母体情報が不足しているため、選択肢に課題があると判断した。

II. 知識・技術・態度別からみた出題内容のバランス

知識・技術・態度別からみた出題内容のバランスについては「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた国家試験出題数」、および「助産師の卒業時の到達目標・到達度別にみた出題テーマ」を用いて分析している。

助産師の卒業時の到達目標は、大きく以下の 9 項目に分類される。

- 1) 母子の命の尊重
- 2) 妊娠期の診断とケア
- 3) 分べん期の診断とケア
- 4) 産じょく期の診断とケア
- 5) 出産・育児期の家族ケア
- 6) 地域母子保健におけるケア
- 7) 助産業務管理
- 8) ライフステージ各期の性と生殖のケア（マタニティステージを除く）
- 9) 助産師としてのアイデンティティ形成

過去 3 年間（本年含む）において、9) 助産師としてのアイデンティティ形成の範囲からは出題されていない。ただし、この内容はすべてに関連し出題が難しい問題であるため、出題バランスが悪いとは言いが切れない。それ以外の項目は、バランスよく出題されている。

今年度は、知識と技術・態度の割合は、知識 71 問(64.5%)、技術・態度 39 問(35.5%)と知識に関す

る問題が多かったものの、技術・態度に関する問題は第96回(20.9%)、第95回(26.7%)に比べて最も高い出題率であった。また、3) 分べん期の診断とケアに関する問題は、22問(知識12問、技術・態度10問)で全体の20.0%の出題率であり、昨年(第96回)の29.1%より減少していた。その一方、4) 産じょく期の診断とケアに関する問題は、32問(知識16問、技術・態度16問)で全体の29.1%の出題率であり、昨年の20.0%より増加していた。

Ⅲ. 助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否か

助産師の卒業時の到達目標・到達度別から過去3年間の国家試験出題数をみると、第97回は知識を問う問題64.5%(第96回79.1%、第95回73.3%)、技術・態度を問う問題35.5%(第96回20.9%、第95回26.7%)であった。助産師は実践能力が求められる専門職であるため、単に知識を問うのみでなく、技術や態度を問う問題が増えたことは望ましい。また、産科医療補償制度や子宮頸がん予防ワクチン、災害時の母子支援などの時代のニーズに合う助産技術に関連した設問や、8) ライフステージ各期の性と生殖のケアについても思春期から中高年までバランスよく出題されていた。

総括

1. 出題問題の検討については、1問を課題のある問題と判断した。
2. 助産師の卒業時の到達目標に沿った問題が、知識・技術・態度別にバランスよく出題されていた。
3. 助産技術・態度に関する問題も全体の35.5%に見られ、今日の周産期課題とニーズに合う助産技術に関連した内容も盛り込まれていた。

以上より、助産師免許付与に必要な能力(レベル)を測定する問題か否かについては、適切であると思われる。